

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 30 日

山梨県知事

長崎 幸太郎 殿

提出者

住 所 茅崎市富士見三丁目7番29号

氏 名 富士島建設株式会社

代表取締役 岩下 佳仁

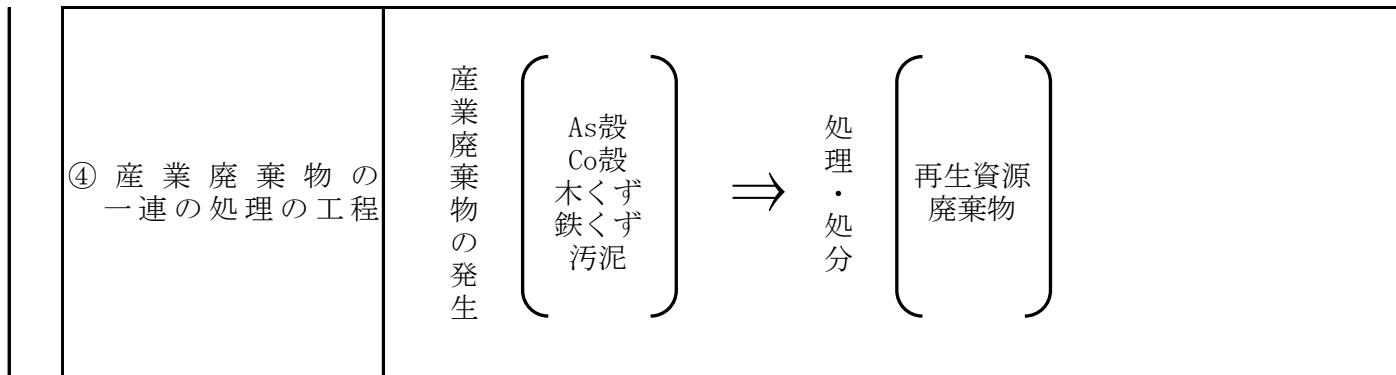
電話番号 0551-22-1811

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	富士島建設株式会社
事業場の所在地	山梨県茅崎市富士見三丁目7番29号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業・総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 12億円
③ 従業員数	35名

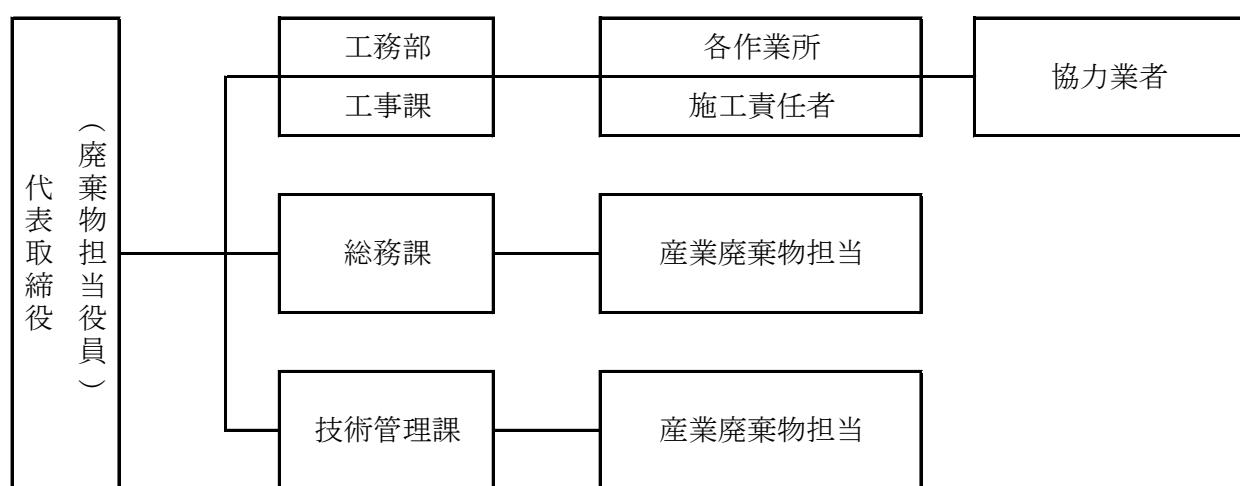


(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】									
産業廃棄物の種類	As殻	Co殻 有筋合	汚泥	廃プラ	木くず	紙くず	金属くず	混合	
排出量(t)	335	2193	1	15	163	0	3	14	

①現状 (これまでに実施した取組)

当社の現場から発生する産業廃棄物は、概ね①As殻②Co殻③汚泥④廃プラ⑤木くず⑥紙くず⑦金属くず⑧混合の8品目であり、なかでもアスファルト塊・コンクリート塊・木くずである。木くずについては全てチップ化して、果樹園等のマルチング材または肥料として再利用している。

【目標】									
産業廃棄物の種類	As殻	Co殻 有筋合	汚泥	廃プラ	木くず	紙くず	金属くず	混合	
排出量(t)	300	2000	1	10	150	0	1	8	

②計画 (今後実施する予定の取組)

上記事項を継続して実施するとともに、今年度はリサイクルできていない品目の混合産廃に対応する。各作業所において混合産廃の分別回収を行い費用の削減を図る。3cm以上の紙くずについては、回収による有価物取引業者に回収を依頼し、リサイクルする。また鉄筋コンクリート構造物についてもコンクリートと鉄筋を分別することで、さらなる努力を継続する。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) コンクリート殻、アスファルト殻、木くず、汚泥の分別を実施。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記事項を継続して実施する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	Co殻	有筋含
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	Co殻	有筋含
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	Co殻	有筋含
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量			t
(これまでに実施した取組)			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	Co殻 有筋含	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

①現状	自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	Co殻 有筋含	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	Co殻 有筋含	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

	産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
	【前年度（ 令和6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下表のとおり	

(第5面)

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

